言葉と行動（２）

**1977年1月30日**

**ベルベディア （言葉と行動の御言より抜粋**）

　統一教会では、私たちは互いを兄弟姉妹と呼んでいますが、どのようにして兄弟姉妹となるのでしょうか。一般に人々は、私たちが神のことばにより、統一原理を通して、兄弟姉妹になると言っています。でもあなた方は、すでに統一原理をもって生きている人格と、統一原理それ自体どちらを欲しますか。あなた方が本当に統一原理によって生き、完成させるならば、あなた方の人格は愛の心をもちます。  
  
　「言葉と行動」が、きょうの私の話題です。気高い人格の人間であるということは、その言葉と行動とが一つの共通の原理によって統一されており、話しと行動を完全に一致させて行うことを意味しています。私たちは話した通りに行動しない多くの人々を見ることができますが、しかしながらあなた方が、高貴な、あるいは神のような人をそのような観点からみた場合、彼らの言葉と行動が統一されていることを見い出すしょう。たとえどのような角度からみようとも、あなた方はそこに、矛盾ではなく調和と統一とを見い出すことでしょう。では、あなた方は完全に言葉と行動とにおいて一つとなっていますか。自分自身の妻に対して、自分の国に対して、また神に対して、自分の言葉が自分の行動と矛盾しないと主張できるならば、その人は本当に完成された人間です。  
  
　私たちは、それらの言葉と行動が、何を中心としているかを考えなければなりません。もしあなた方が言葉と行動の統一された人間になるとするならば、どのような強調点、あるいはどのような基盤の上で生きたいと思いますか。もし、あなた方の強調点と基盤が明確でなかったら、あなた方の方向は不安定であり、あなた方のコースはぐらぐらしたり邪魔されたりするかもしれません。

宇宙の中心である神の愛  
　いったい、どのような強調があなた方に、より高い価値をもたらしてくれるのでしょうか。誰であっても、言葉と行動の最高の一致が、愛を強調することによって始まることを否定することはできません。　あなた方が神のおられる中心点から話すとき、その言葉はもはやあなた方から出ているのではなく、無限の貯蔵庫から出てきているのです。そのような特別の位置において、あなた方はの喜びで、また、完成という引き上げられた感覚で生活し、行動し、話しをするのです。あなた方がなすことは、どんなことでも、あなた方自身の行動やあなた方自身の言葉といったものがありません。すべてが神の愛の伝達者、あるいはかけ橋となります。いったんあなた方が神の愛を味わうと、人間生活や人間関係はすべて喜びであり、刺激となります。そのようにいったんあなた方が神の愛の圏内に入ると、あなた方はそれだけ多くの変化に富んだ経験を得、それだけ多くの興奮を感じるのです。

**私たちが肉体をもってこの地上にいる期間は、私たちの愛と私たちの霊とを完成させるための機会です。私たちは、私たちの中にある神の愛を示すために、肉体を必要とします。それが、私たちの肉体が重要である理由です。肉体をもっている間、この地上において可能なことなのです。いったんあなた方が肉体を脱ぎ、霊界にあげられると一インチの霊的進歩をなすために、あなた方は何百万年も必要となります。**  
  
　私たちがここで霊と肉体とを一緒にもっている間は、私たちは奇蹟を起こすことができます。私たちの肉体は私たちの心を示すことができ、途方もない変化が起こり得るからです。しかしいったんあなた方が肉体を失い、霊だけになると、そのような機会はなくなります。そうなると、行動するためにあなた方は下りてきて、地上の誰かと一緒に働かなくてはなりません。現在、あなた方が自分自身の肉体でさえも、時々、自分の心にあまりよく反応しないとしたら、ましてや他人の肉体ではどうでしょうか。何事を成し遂げるにも大変ぎこちなく、はがゆいことでしょう。私たちが一度はっきりと神についての真理を知るなら、犠牲的な生活をすればするほど、私たち自身の業績のためには、それだけ良いことがわかるでしょう。

**あなた方が自分の行動と自分の言葉を神のために投資したなら、あなたの話すあらゆる言葉は、目的と結果をもって弾丸のように飛びます。無駄な言葉を話してはいけません。不平を並べないことです。不平不満はあなた方のエネルギーを浪費する言葉です**。  
  
　もし、あなた方が自分の体を自分自身のために用いたならば、あなた方の働きは残りません。しかしもし、あなた方が自分を、他人のために伝道したり、生産的な物事に捧げるならば、あなた方の行動は残るでしょう。きょう、今まであなた方がどれだけ多くの無駄な言葉を語ってきたか、またその逆に、**どれだけ多くの言葉を神のために生産的に語ってきたか、あなた方は分析してみてください。**